

夢を紡ぎて

上田市立長小学校

学校だより

令和2年11月26日

テーマ：自分を大切に・友達を大切に・友だちの輪を広げよう

11月は、なかよし月間。
昇降口には、友だちのすてきな姿が葉に書かれている大きな「なかよしの木」があります。



全校の子ども達一人一人に3枚ずつ「木の葉」が配られました。3枚の木の葉は、薄い緑、黄色、朱色と色が違っていています。最初は、薄い緑から友だちのすてきな姿を書くことになっています。友だちのすてきな姿を見つけて木の葉に書くごとに、なかよしの木はどんどんと秋の紅葉のように色を変えていくことになりました。



自分の学級だけでなく、学年を超えてすてきな姿が書かれているなかよしの木は、今、すてきな紅葉となっています。子ども達は、そこに書かれている事を読みながら、また自分の木の葉に友だちのすてきな姿を書いていました。



認めて認められて、認め合う子ども達の姿の素晴らしさを感じています。

学校目標における重点目標に、「相手意識の醸成」と掲げています。相手を思いやり、心配りの心を育てたいという願いがありますが、子ども達の心の中に、相手を思う優しさが育っているのではないかと思います。なかよしの木を嬉しそうに見ている子ども達の姿を大切に、しっかりとこの取り組みを活かしていきたいと考えています。

また、なかよし月間では、なかよしアンケートを行い、子ども達一人一人と話をする時間を作ったりしています。子ども達一人一人が悲しい思いをしていないかアンテナを高くし、学校に行くことが楽しいと感じられる長小学校を目指していきます。

《 お 礼 》

- 「学校行こう週間」での参観やマラソン大会での応援等、ありがとうございました。子ども達が毎日元気に登校し、行事に取り組むことができるのは、ご家族の皆様や地域の皆様の支えや声かけのおかげであると感じています。今後も、どうかご協力をよろしくお願いいたします。
- 11月14日の資源回収へのご協力、ありがとうございました。今年度は、PTA 作業ができず校庭等の草を子ども達と少しずつ取ってはいましたが、なかなか草の生長に追いつかずいました。その中、9月26日（土）に、前PTA 会長大久保さん、今年度のPTA 三役の一之瀬さん、田中さん、柳澤さんが草刈りをしてくださいました。また、PTA会費で消毒関係（アルコール・オートディスペンサー）の物を購入していただき大変助かりました。感謝の一言に尽きます。

ことばは、心が込められたボール

今月 4 日から「なかよし月間」に入りました。今回のお話は皆さんと一緒に言葉について考えてみたいと思います。

お友だちと会ったり、遊んだり勉強したりするとき、私たちは「ことば」を使います。朝、お友だちに会うと「おはようございます」、帰るときは「さようなら」。「一緒に遊ぼう」「うん、遊ぼう。」色々なところで言葉を使いますね。

お友だちとの言葉のやり取りは、私はキャッチボールのように思います。皆さんもキャッチボールをしたことがあるでしょう。キャッチボールをするとき、皆さんはどんなことを考えて、投げたり受け取ったりしますか。

私が、Aさんとキャッチボールをした時のことです。

私は、Aさんがボールを受け取りやすいようにと思って、できるだけ体の真ん中に投げるようにしました。そうしたら、Aさんはしっかりと受け取ってくれました。Aさんはどんな気持ちでキャッチボールをしましたかと聞くと、Aさんは「取りやすいボールを投げってくれたので、僕も校長先生が受け取りやすいように考えて投げました。」私もAさんと全く同じ気持ちでしました。やっているうちに、お互いに気持ちが繋がったようで嬉しくなりました。

では、こんなキャッチボールはどうでしょうか。

わざと、強くそらして投げる。相手も、そらして放りつける。わざと取れないように投げる。すると変なボールが返ってきたので、次はもっと変なボールを投げつけました。Aさんはどんな気持ちでしょう。「変なボールを投げってきたので、自分も相手が取れないような変なボールを投げました。」やっているうちに、私は「いやだな。」「もう、やりたくないな。」と思いました。

相手のことを考えたり、気遣ったりするから、キャッチボールになるのです。でも、自分勝手に投げたり、相手が嫌がるボールを投げたりすると、キャッチボールにはなりません。

お友だちとの言葉のやり取りは、キャッチボールのように思えるといいました。

「よかったね。」「頑張ったね。」と褒めたり励ましたりする温かい言葉は、ボールでいうと、優しく心を遣って投げたボールです。何かあっても「ごめんね。」という「いいよ。」投げ返してくれて仲直りでき、「ありがとう。」と笑顔になります。

キャッチボールのように、温かい言葉やお互いが仲良く、元気になる言葉を、長小の皆さんにはどんどん使ってほしいと思います。

終わりに、北原白秋という人の詩を紹介します。

「ひとつのことば」 北原白秋

ひとつのことばで けんかして
ひとつのことばで なかなおり
ひとつのことばで 頭あたまが下がり
ひとつのことばで 心こころが痛む
ひとつのことばで 楽しく笑い
ひとつのことばで 泣かされる

ひとつのことばは それぞれに
ひとつの心こころを持っている
きれいなことばは きれいな心こころ
やさしいことばは やさしい心こころ
ひとつのことばを 大切に
ひとつのことばを 美しく



「ことば」は、心が込められたボールです。

皆さんは、どんな心を込めて言葉を使いますか。考えてみてください。